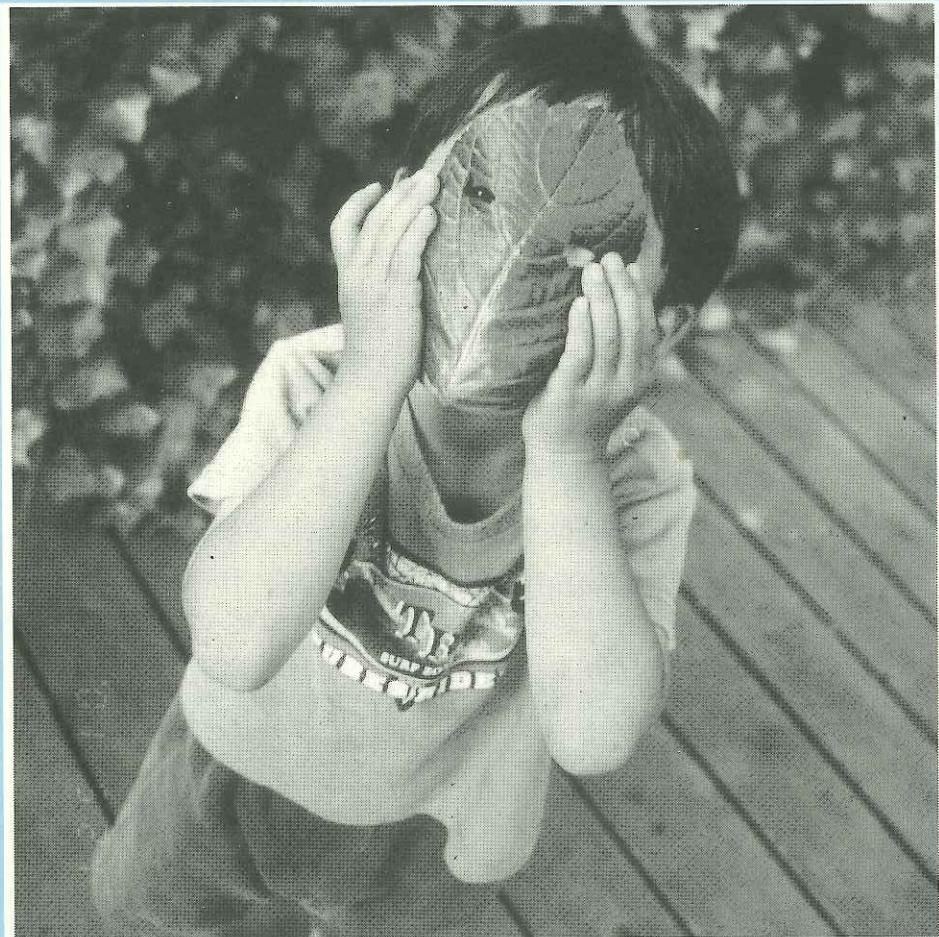


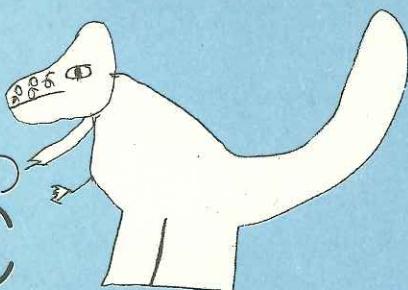
やつてみよう！

自主保育



しんばれん

自主保育の
ABC

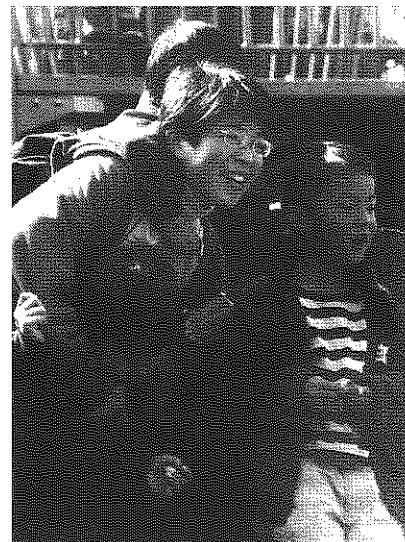


子どもといっしょに元気を育てる仲間が ここにいるんだなあ～。

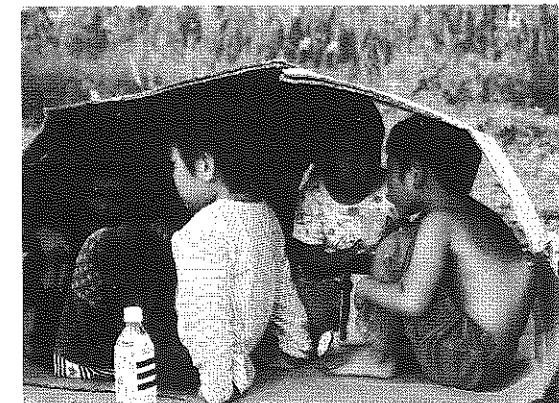
転勤で越してきた。
友だちはいないし、夫の帰りは遅い。
家は大きな道路に面していて、子どもだけでちょっと遊べる場所もない。
狭いうちの中で子どもと二人きり、ストレスからつい当たり散らしてしまう。
車通りの多い道を苦労して公園に連れて行ったのに、
今度はよその子のおもちゃを取ってしまうわが子に、周囲からの視線がつきささる。

ある日公園で、自主保育グループに会った。
大きい子も小さい子もごっちゃ、思い思いに遊んでいる。
木登り、たたかいでっこ、花びらでおまかごと、どろんこの子。
子どもどうしのけんかに「ゴメンナサイは？」と割って入る大人がいない。
どの子がどの親の子なのかさえ、よく分からない。
「うちの子乱暴で。よその子のもの取っちゃって…」とつぶやくと
「しょうがないじゃない、子どもなんだから」と返してくれた。

今、私は自主保育で子どもたちと過ごし、とびきりの元気をもらっている。
ヤンチャ坊主に手を焼くお母さんに、今度は私が声をかける番。



子育てにはエネルギーも忍耐力も必要。
すぐに結論を出さないで様子を見ることも大事だったりします。
一人で抱え込むと親のキャバを超えてしまいます。
自主保育では、親たちが孤立することなく助け合い、
つながりあうことができます。
人を頼り人からあてにされるという関係を周囲に広げていくことで、
子どもの育ちをともに見守れる仲間をお母さん同士も
自然に得ることができます。



自主保育ってなに？

就学前まで、野外で、預け合い

自主保育とは、緑地や公園、プレーパークなどを拠点に親たちがグループをつくり交代で子どもを預かりあいながら、地域の中に子どもの育ちの場をつくる活動です。

都市化が進み、“遊んでいい自然”が子どものまわりから消えようとしている今、私たちは外遊びを通して子どもたちが身近な自然で遊ぶことを大事にしています。

幼稚園・保育園は義務教育ではないので、小学校入学までの子どもを対象に活動している自主保育グループが各地にあります。

CONTENTS

青空の下いっしょに子育てしませんか…	2
自然の中で思いっきり遊ぼう!……	4
みんなの子どもをみんなで育てる……	6
自主保育をはじめよう! [Step1] ……	8
自主保育をはじめよう! [Step2] ……	10
乳幼児の外遊びを応援する場……	12
自主保育人生すごろく / 他……	13





子どもの時間——陽射しや風雨、木や草や土などが子どもたちに、知らず知らずのうちに生き方を教えてくれる。

青空の下いつしょに 子育てしませんか？ 親も子もここで育つ、 みんなで育つ。

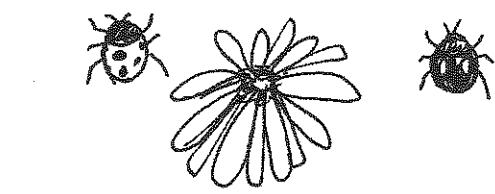
自主保育で大切にしている「外遊び」

学校に上がるまでの日々を、身近な自然の中で遊びながら親や仲間たちと共に過ごす。幼稚園や保育園以外にそんな選択もあることを知っていますか？ 土の感触、草木の匂い、風の冷たさ、火の暖かさや怖さ…。小さな自然を体全体で受け止めながら、遊びをつくり出していく子どもたち。半日虫捕りしている子、ずっと泥ケーキを作り続ける子。先生はいない、カリキュラムもない。ただその子がやりたいと思ったこと、飽きるまでやらせてあげたい。

家族が広がっていく自主保育

赤ちゃんから大きい子まで、大家族の兄弟みたい。たくさん遊び、ケンカや仲直りをくりかえして子どもが自分の力で育っていく。うちの子もよその子も、みんなで育っていくと、子どもたちの成長を共に見守れる仲間が親にもできる。みんなで支えあえるから、泣き虫でもおこりんぼでも、ありのままのこの子が愛しいと思えるのかも。

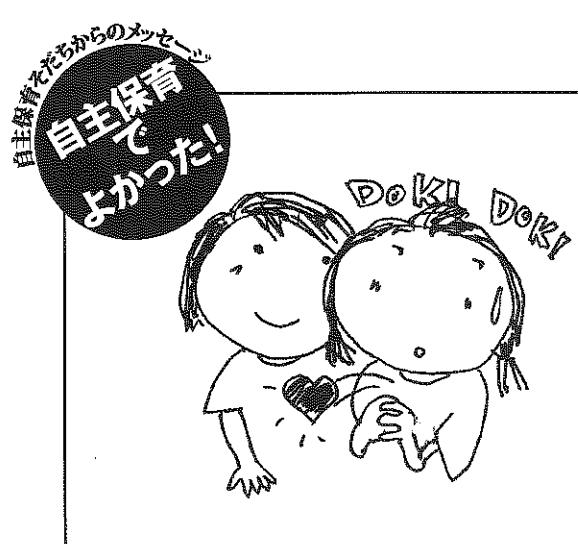
子どもともっと一緒に過ごしたい人にも子育てに悩んでいる人にも、知ってもらいたいな、自主保育。



自分でやってみる。
遊びが身の回りの
世界を少しづつ
広げていく。



時間やカリキュラムに制限されず、心ゆくまでやりたいことをできるのは魅力。



子どもは親の思うように育たない。予期せぬことが起こり、ハラハラドキドキさせられ、そのたびに親は試される。その時にしっかりと子どもと向き合い、子どもを受け止めることが、親としては必要なことだと感じている。私には自主保育で子育てを共有した仲間たちがいた。でもその不安や迷いと一緒に感じとり、支えてくれた仲間がいなければ一人で抱え込み、そこから逃れようと、どこかで子育てを放棄していたかもしれない、と、今振り返って思う。(H.I)

自然の中で思いっきり遊ぼう!

水

と遊ぶ

つかもうとしても つかめない
しぶきになって 飛んでいく
蛇口から落ちる水
コップからあふれる水
ホースの先から飛びだす水
変幻自在な 水の魅力



木陰と少しの水さえあれば、暑い夏も涼しく過ごせる。水は子どもの成長に必要な遊びをすべて与えてくれる。畑の作物に水をやるように、子どもにも水をやって育てたい。

一年中温度の変わらない部屋から一歩外へ出てみよう。夏は水遊び。冬は追いかけっこであたたまる。雨の日にびしょぬれになつて遊ぶ。大風に吹かれてみる。自然の営みをからだで感じる。

土

と遊ぶ

水をまぜて おだんごをつくる
手の中でころがして
そっと並べる いくつも いくつも
道路工事で穴を掘る
みみず幼稚虫 ピーピー弾
いろんなものがあらわれる穴の中
ひんやりした土の世界



子どもが自ら育つ力を信じ、自然のリズムに逆らわずに子育てしたい。

火

と遊ぶ

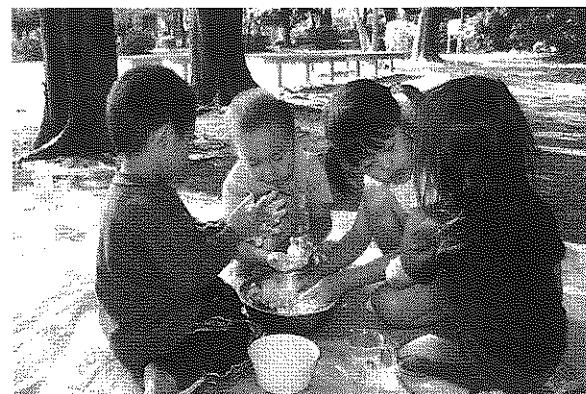
火のそばにいる
パチパチ 小枝が燃える
ゆらゆら 炎が揺れる
もくもく けむりが出る
思わず夢中になっている
太古の昔に引き込まれる



日常の中で、やりたいときに自分からやってみること。それは大人が必要だと思うことを子どもに体験させる「体験イベント」と、根本的に違っている。

野外料理

カレーにとん汁
ピザにパン
野草の天ぷら
よもぎだんご
みんなでつくって
外で食べるごはん
いただきまーす！



過ぎてしまうとあっという間の、子どもととことん付き合える時間。

作る

お絵かき 切り絵 木工作
キラビー玉 染め物 焼き物…
風の向くまま 気の向くままに
つくるてる
今を 楽しんでいる



歩く

リュックを背負って
どこまでも
遠くの公園
山登り ハイキング
子どもたちは
思ったよりずっと
元気に歩けるもの



目の当たりにして知る、“いのち”的重み

早化木虫

と遊ぶ

木があれば のぼる
虫がいれば つかまえる
枝を拾えば たたかいごっこ
バッタ カナヘビ ダンゴムシ 草花
どんぐり 落ち葉のプール
自然の恵みが 遊びの素材

